



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第23回「昔はどうでした？」

☺ 後藤さんは、いつ頃からネットワークをお使いになっているのですか。

ネットワークといえるかどうかわかりませんが、電子メールを初めて使ったのは1979年の秋です。

☺ それは古いですね。電子メールならば、当然ネットワークに関係しますよね。

ところが、それは1台の計算機の中にとじたメールなのです。その年に研究室に導入されたDEC System 20という計算機に、便利なメールのソフトがありましてね。

☺ 便利とはいっても、届く範囲は同じ研究室の中だけですか。それでも珍しいからよく使いました。呼べば聞こえるのに、わざわざメールで連絡をし合ったりしましたね。

☺ ということは、一応は実用的に使ったのですね。

ところが当時の端末では漢字が表示できません。日本語ならばローマ字、そうでなければ日本人同士でも英語です。だから能率が悪いです。

☺ 今となっては、ちょっと信じられないような光景です。

そんなに信じられないならば、もっと不思議な話をしますとね。

☺ いったい何でしょう。

【昔は小文字が出せなかった】

そのDEC System 20の前に、私たちはPDP-11というミニコンを使っていました。

☺ それも歴史に残る名機ですね。

ソフトウェアは何種類もあったのですが、ごく初期に使っていたエディターでは英語は大文字だけが扱えなかったのです。

☺ 本当ですか？ PDP-11もDEC製、つまり米国のミニコンですよ。のちにはUNIXが搭載されて一世を風靡したわけで、小文字が普通だと思えますが。

だから全部のソフトウェアとは思いませんが、とにかく最初の頃に私が使ったeditというエディターは大文字だけですね。それを同僚の奥乃博氏（NTT基礎研究所）が改造して小文字が使えるようになったので、edit1という名前を付けていました。

☺ わあ。奥乃さんも結構古いのですね。

妙なところに感心するものではありません。ここで教訓とすべきは、現在の進歩したネットワークや計算機といえども、あとになって振り返ってみると「そんな不自然なことが...信じられない」といわれる可能性があるということです。

☺ 何だかお説教のようになってきましたよ。

【諸行無常とディスクの故障】

でも現代はよい時代になりました。昔の計算機はよく故障しました。今は格段に丈夫になったと感心しています。

☺ そんなによく故障したのですか。

ええ。そう思います。電子メールを読もうとしたのに、ディスクがクラッシュして読めなかったという思い出が何回もあります。

☺ その対策は何もなかったのでしょうか。

故障に備えて定期的にバックアップを取る。つまり、磁気テープにディスクの内容を保存するのです。でも不思議なもので、用心している時には故障が起きないのです。

☺ 神社のお札とか、お守を計算機に貼る人もいたそうですね。

いろいろな工夫がありました。私は「形あるもの必ず壊れる」とか「諸行無常」とかという言葉を壊れたディスクの円盤に書いて...。

☺ それは古典的なお言葉ですが、現代にも通用しそうです。

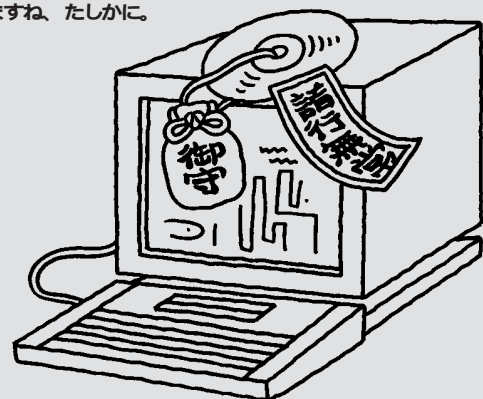
たぶん原理的には今でも正しいでしょう。でも、これだけ計算機が氾濫してくると、1台くらい壊れても平気という感覚がある。分散処理の勝利と言えます。だから、今日のネットワークで怖いのは停電くらいになってしまいましたね。

☺ 泣く子と停電には勝てぬ、ですか。

それも瞬断ならば対策がありますね。そういう面でも進歩しました。昔は、仕事が遅れた時の言い訳として「ディスクが壊れた」と言うと、相当に同情されたものです。

☺ そういう便利な言い訳の言葉が減っ

てきていますね、たしかに。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp